
俺と姉貴の非凡な日々！

かもめ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺と姉貴の非凡な日々！

【Nコード】

N7988V

【作者名】

かもめ

【あらすじ】

今年で高校一年生となった少し暗めの少年、高峰^{たかみね} 優斗^{ゆうと}は姉に数々のいたずらを試みる。

姉のことが嫌いだからではなく、姉に自分を見てもらいたかったから。

しかし、優斗はそんな自分の感情には気付かず自分が姉にいたずらをするのは「単なる暇つぶし」だと思っている。

そんな時、いたずらの罰として姉貴に買い物に付き合わされて……？

ブローグ シスコンとはどういう人なのか

最初に言っておくべきことがある。

俺はシスコンではない。

それをふまえた上で聞いてもらいたいことがある。

シスコン……つまり、”シスターコンプレックスの定義”についてだ。

シスターコンプレックスとは、女姉妹に対して強い愛着・執着を持つ状態をいう。俗に「シスコン」と略され、この場合は、女姉妹に対して強い愛着・執着を持つ兄弟姉妹自体についても使われる。

これが某サイトに記してあったシスコンの意だ。

シスターコンプレックスは、特に「姉妹に対する恋愛的感情」や「自分のものにした独占欲」のある兄弟、と言う図式で捉えられマインスイメージをとまなうことが一般的になっている。

異性間に使われることが多いが、同性（姉妹に執着する姉や妹）にも使われることがある。この場合は、「姉を慕う妹」「妹思いの姉」としてむしろ肯定的に見られることが多い。

とも記されている。

では、なぜ「姉を慕う弟」「姉思いの弟」は肯定的に見られないのだろうか。

俺は断じてシスコンではない。

シスコンではないが、一度「シスコンだ」と言われたことがある。たしかに俺は姉貴のことを悪くは思っていない。

良い暇つぶし相手になるからな。

恐ろしく天然な姉貴を、ちよつといじめるのは結構楽しい。

いじめると言っても決して暴力的なものじゃないよ？

制服の背中の部分に「315円」と書かれた値札を貼るなどのことだ。

「塩取つて」と言われて砂糖を渡したけど、普通に食べてた時は焦ったがな。

後で、砂糖だったことを言うと

「だから、甘かったんだ！」

と、言われて何となく姉貴を心配してしまった。

……話を戻そう。

俺がシスコンと言われたということは、こんな俺と姉貴の關係に否定的な目線を向けているということになる。

俺は姉貴に強い愛着・執着を持っている訳ではない。

たとえば、「姉を慕う弟」「姉思いの弟」という意図で言っていたとしても社会的には否定的に見られるという。

では、何故シスコンは否定的に見られるのだ？

ここまで俺の主張を聞いた結構な人は答えに悩むと思う。

むしろ、自分の家族を大切にできる良い人ではないのかと思った人もいることだろう。

それなら、俺は決してシスコンではないが、

「シスコンはこの世に認められるべき存在だ」ということを主張したい！

非凡な日々1日目！ コーラプリン

俺の名前は、たかみね高峰 ゆうと優斗。

今年、長月高校という私立高校に入学したばかりの新生。
目立つこともなければ、嫌われているわけでもないごく普通の高校生だ。

「ちょっと優斗、醤油取って。」

今、俺を扱き使おうとしたのは、たかみね高峰 ゆうな優奈。

俺の姉貴だ。

弟の俺が言うのもなんだが、顔は可愛い方だと思う。

クラスでもモテている方らしい。

かなりの天然で、いろんな人を困らせているみたいだが、友達も多く人間関係には特に困った様子もない。

「はいはい。」

俺は特に何も考えずに醤油を取りに行った。

「これか、って空っぽじゃん。」

俺の見つけた醤油さしには何も入ってなかった。

ここで唐突に俺のいたずら心に火がついた。

” コーラ入れて渡そう ”

俺は心の中で焦った姉貴の姿を思い浮かべながら醤油さしにコーラを入れていく。

「はい、醤油。」

姉貴にコーラの入った醤油さしを渡す。

「ありがとう、優斗。」

すると、俺から醤油さしを受け取った姉貴は、なんのためらいもなくコーラを料理中の何かに入れた。

「あ」

思わず間拔けな声が漏れた。

正直、すぐにコーラだと気づかれると思っていたのでまさかの展開に焦っている。

なんで炭酸の泡に気付かない！？

普通気づくよね？

「あの……姉ちゃん。何作ってるの？」

「ん？醤油プリンだよ。」

ネットでレシピが載ってたから作ってみたの。

できたら優斗にも食べさせてあげるね！」

と、姉貴は俺に微笑みながら話を続けた。

「それより、優斗どうしたの？」

優斗が私のこと姉ちゃんって呼ぶときは相当焦ってる時だとみた
！」

変なとこだけ鋭い姉貴はそう言うと言つと真剣な表情をし、大きく綺麗な目で俺の方をじーつと見てきた。

「え、あの、えーつと……。」

どうやら俺は焦って姉貴のことを昔の呼び方で呼んでいたようだが、今はそんなことよりこの状況をどうにかすることで頭がいっぱいだ
った。

解決策が全く思い浮かばなかった俺は、

「しょ、醤油プリン俺いらなから！」

とだけ言っただけで家から猛スピードで出ていった。

コーラよ、どうかプリンと仲良くしてくれ、と願いながら。

非凡な日々2日目！ デートの約束！？

「もう！ プリンにコーラ入れさせたの優斗でしょ！」

俺が家に帰ったとたん、何故かコーラを持って怒った様子の姉貴が現れた。

「え、な、何のことかな……？ はは」

帰っていきなりコーラプリンのことを言われるとは思ってなかった俺は、顔を歪ませながら無理のある知らぬふりをする。

さすがの姉貴もこれには引つ掛からず、手に持ったコーラを俺の頬に押し付けながら口を開いた。

「こんなプリン食べられないよお！ 友達にあげちゃって、もういっぱい謝ったんだから！」

いや、だってな……？

いくらなんでもあの泡の出てる液体を醤油と間違えるなんて思わねえよ……

というか、友達にあげる前に自分で味の確認を……

文句を言ったらきりがないのでこの辺でやめておく。

実際俺が悪いしな。

「悪かったよ。」

「え、そう素直に謝られると……」

最近俺が身に付けたスキル、【謝る】

このスキルによって姉貴はやっとコーラを俺の頬から離れた。

我ながらこのスキルを得たのはなかなか凄いな。

と、自分を褒めている途中で、姉貴の唐突な声が聞こえてきた。

「今度の日曜日空いてる？」

「え……？」

あまりにいきなりすぎて、俺の脳内が一時停止する。

「わ、私にコーラを渡した罰！ 空いてるなら買い物手伝って欲しいな……？」

普段、人に頼み事をするのが無いのだろうか。
今までの怒った様子は消え、姉貴は少し顔を赤くして、まるみを帯びた大きな丸い目を上目づかいで覗かせている。
おもわず可愛いと思ってしまったが相手が姉貴だと思い出し、その考えを振り払う。

でも、冷静に考えてみると今回は俺が悪かった……？

そう……だよな？

なら行くべきなのか？

うん、行くべきだ。

……ちよつと待て。

もしかして俺もちよつと行きたいって思ってるのか……？

それで、無理矢理な理由を？

……いや、そんなことねえよ！

うん絶対ない。

俺は姉貴のお願いを聞いてあげてるんだ。

姉想いの優しい弟なんだ！

「わ、わかったよ！ 日曜日に買い物だな？」

自分で何を考えているのかよくわからなくなった俺は少々投げやり
に姉貴のお願いを承知した。

すると姉貴は上目づかいをやめ、優しく微笑んだ。

「よかった。じゃあ日曜日の一時に月詠駅ね！」
つくよみえき

そついうと、姉貴は長くも短くもない綺麗な髪をなびかせ、二階に消えていった。

「はあ、なんでこんなことに……」

俺は姉貴の姿がみえなくなると、自分の部屋に入って姉貴との買い

物デート(?)の準備に没頭していた。

非凡な日々2日目！ デートの約束！？（後書き）

更新速度はかなり遅いと思いますが、読んでくだされば嬉しいです。

感想、誤字・脱字の訂正、アドバイス等、いただけると幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7988v/>

俺と姉貴の非凡な日々！

2011年10月8日19時02分発行